

2019年3月期第2四半期 決算報告

2018/11/14

第一生命ホールディングス株式会社



Dai-ichi Life
Holdings

- 第一生命ホールディングス 経営企画ユニット ユニット長の西村です。
- 本日は、第一生命グループの2019年3月期第2四半期決算報告の電話会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。
- 私から資料に沿って決算内容についてご説明し、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 早速説明から始めさせていただきます。1ページをご覧ください。

1. 【営業業績】国内新契約年換算保険料は前年同期比43.8%増加

- 国内3生保でのマルチブランド・マルチチャネル戦略による販売が拡大。第一フロンティア生命の銀行窓販チャネルにおける販売増もあわせて、国内3生保の新契約年換算保険料は前年同期比で43.8%増加
- 海外も堅調に推移

2. 【連結業績】連結中間純利益は実質増益、グループ修正利益も高い伸び

- 連結業績は増収・減益だが、前年同期の連結業績ではジャナス・ヘンダーソンの統合に伴う一時的な株式交換益233億円を計上しており、これを除くと実質的には増益を達成
- 第一生命は想定を上回る進捗、その他子会社も概ね想定線上

3. 【EEV】グループEEVは6.5兆円に増加

- 新契約価値は前年同期比で減少したものの、グループEEVは米国における買収効果に加え、市場要因もあり増加

- 今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。
- 営業業績については、3つのブランドが競争力のある商品を投入し、最適なチャネルを通じてお客さまに繋ぐマルチブランド・マルチチャネル戦略を推進した結果、営業職・代理店・銀行窓販のいずれのチャネルでも新契約を伸ばし、3社合計で前年同期比43.8%の高い伸びを達成しました。海外生命保険事業では、前年同期にオーストラリアのTALが団体事業で複数の契約を獲得した反動で新契約は減少となりましたが、この影響を除けば各社順調に新契約を伸ばしています。
- 第二に、連結業績については、前年同期比で増収・減益となりました。前年同期にはジャナスとヘンダーソンの合併に係る株式交換益を税引後で233億円計上しており、これを除外すれば実質的には増益となります。株主還元の原因であるグループ修正利益は前年同期比23%増と高い伸びを達成しました。足元の金融市場はボラティリティが上昇していますが、9月末にかけては株式市場・為替市場共に当初前提に対して追い風となり、第一生命の運用収支が想定を上回り、進捗が高くなっています。その他グループ会社は順調な進捗となっています。
- 最後に、グループ・エンベディッド・バリューは、9月末は6.5兆円に増加しました。新契約価値は前年同期比で減少していますが、グループEEVはプロテクティブによるリバティ・ライフの保険契約買収の効果として約380億円のほか、内外で金利・株価が上昇したことを要因として増加しています。
- 次のページをご覧ください。

(億円) <参考>

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計(a)	前年同期比		2018/5/15 発表予想(b)	進捗率 (a/b)
連結経常収益	33,648	35,969	+ 2,321	+ 7%	64,290	56%
第一生命	18,158	18,277	+ 119	+ 1%	36,210	50%
第一フロンティア生命	8,729	11,051	+ 2,322	+ 27%	14,290	77%
プロテクトィブ(百万米ドル) ⁽¹⁾	4,909	4,265	△ 644	△ 13%	9,190	46%
TAL(百万豪ドル) ⁽¹⁾	1,890	1,855	△ 35	△ 2%	3,830	48%
連結経常利益	2,121	2,162	+ 40	+ 2%	4,140	52%
第一生命	1,581	1,791	+ 210	+ 13%	3,300	54%
第一フロンティア生命	264	142	△ 121	△ 46%	250	57%
プロテクトィブ(百万米ドル)	237	191	△ 46	△ 20%	470	41%
TAL(百万豪ドル)	82	98	+ 15	+ 19%	200	49%
連結純利益 ⁽²⁾	1,283	1,163	△ 120	△ 9%	2,200	53%
第一生命	725	940	+ 214	+ 30%	1,650	57%
第一フロンティア生命	152	64	△ 88	△ 58%	140	46%
プロテクトィブ(百万米ドル)	159	155	△ 4	△ 3%	370	42%
TAL(百万豪ドル)	55	67	+ 12	+ 22%	140	48%
グループ修正利益	1,021	1,251	+ 229	+ 23%	2,300程度	54%

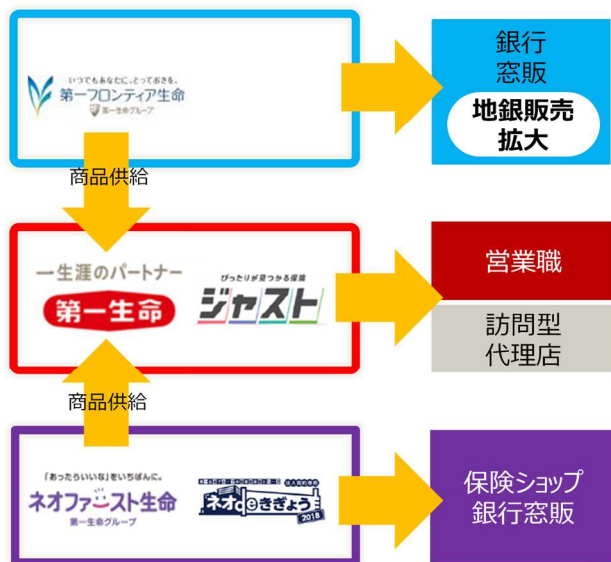
(1) 米プロテクトィブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。
連結の際には、それぞれ1米ドル=112.00円(18/3期2Q)、110.54円(19/3期2Q)、1豪ドル=88.47円(18/3期2Q)、81.83円(19/3期2Q)で円換算しています。

(2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。

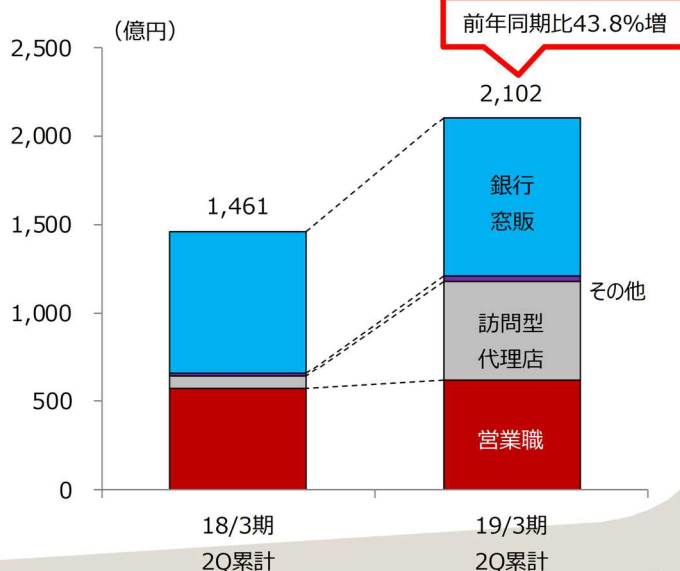
- 連結及び主要子会社の業績概要について説明します。
- 連結経常収益は、前年同期比2,321億円の増加となりました。米国の金利上昇を背景に、第一フロンティア生命の外貨建て貯蓄性保険の販売が大幅に伸張し、保険料等収入の増加につながりました。通期予想に対する進捗も77%に達しています。
- 連結経常利益は、前年同期比40億円の増加となりました。第一生命では、料率改定により新契約に係る標準責任準備金繰入額が減少した結果、保険関係損益が大きく改善し、増益となりました。第一フロンティア生命では最低保証にかかる損益や市場価格調整にかかる損益が悪化し、減益となりました。プロテクトィブでは、第1四半期に発生したインフルエンザの流行に伴う保険金支払増の影響等により減益となりました。TALは個人保険における保険金支払の減少等により、増益となりました。
- 親会社株主に帰属する中間純利益(連結純利益)は、前年同期比120億円の減少となりました。前年同期にはジャナス・ヘンダーソンの合併に係る株式交換益を税引後で233億円計上したことが影響しています。第2四半期のグループ修正利益は1,251億円となり、前年同期の1,021億円から大幅な増加となりました。増益の要因分析や、連結純利益から修正利益への調整過程は参考資料の21ページに図示していますので参考にしてください。
- 次のページをご覧ください。

- 第一生命の「ジャスト」、ネオファースト生命の「ネオdeきぎょう」等、新商品を投入しマルチブランド強化。お客さまに最適なマルチチャネルで販売。第一フロンティア生命は、メガバンクに加え、地銀での販売が拡大
- 営業職・訪問型代理店・銀行窓販等、いずれのチャネルでも新契約を伸ばし、国内3生保の新契約年換算保険料は前年同期比43.8%増

マルチブランド・マルチチャネルでお客さまニーズに対応



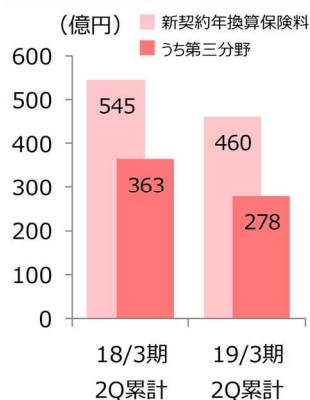
国内3生保の新契約年換算保険料



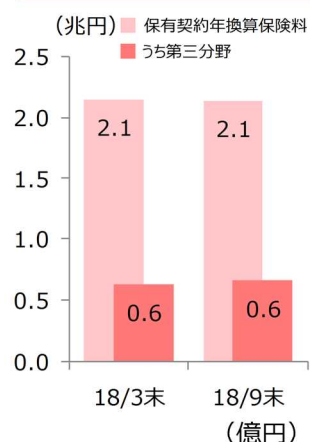
- ここからは国内生命保険事業について説明します。
- まず3社の営業業績についてですが、3つのブランドがそれぞれ競争力のある商品を開発し、グループでチャネル開拓を進めながらお客さまのニーズに合わせて最適なチャネルで商品・サービスを提供するマルチブランド・マルチチャネル戦略を進めています。
- 今年3月に第一生命では「ジャスト」や健診割、ネオファースト生命では「ネオdeきぎょう」など新商品を投入し、また第一フロンティア生命ではメガバンクに加えて地銀等との委託販売が拡大し、外貨建て貯蓄性保険の販売が好調に推移しました。
- この結果、営業職・代理店・銀行窓販全てのチャネルで販売が伸び、3社合計の新契約年換算保険料は前年同期比43.8%増と大幅な伸びを記録しました。
- 次のページをご覧ください。

- 第一生命の営業職・代理店チャネルによる3ブランド商品の販売強化などにより、単体での新契約年換算保険料は減少。保有契約年換算保険料は対前年ほぼ維持
- 保険関係損益の増加を主因に基礎利益・純利益は前年同期比二桁増

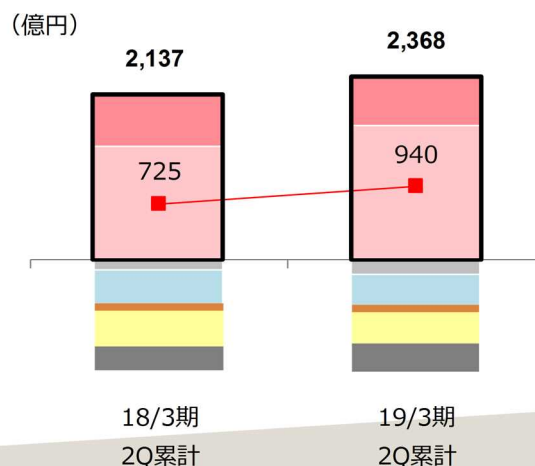
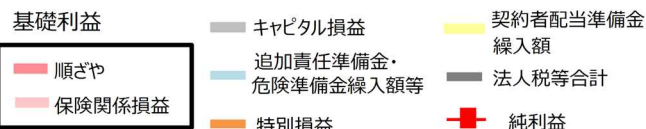
新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



基礎利益・純利益増減分析



	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
基礎利益	2,137	2,368	+231
純利益	725	940	+214
修正利益	725	940	+215

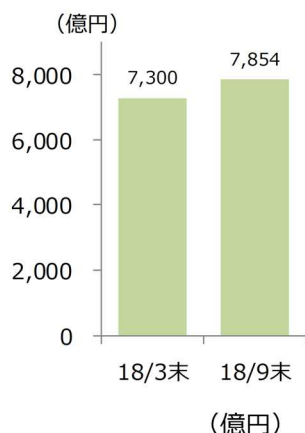
- 第一生命の業績を説明しています。
- 新契約年換算保険料が前年同期比で減少していますが、第一生命の営業職や代理店が第一フロンティア生命やネオファースト生命など3ブランド商品の販売を強化したことなどが要因です。
- 基礎利益は主に保険関係損益の増加を背景に前年同期の2,137億円から2,368億円に拡大しました。
- 前年同期に計上された投信の分配益・解約益が減少したことが要因で、順ざや額は減少していますが、これまで市場環境は良好に推移しており、想定を上回る進捗となっています。
- 保険関係損益の改善は、今年3月の料率改定を伴う新商品投入により標準責任準備金繰入額が減少していることが主な要因です。
- キャピタル損益は損失がやや増加しています。株式の売却や国内債の入れ替えを進め、有価証券売却損益は改善しましたが、相場下落に備えたヘッジポジションにより、金融派生商品費用が増加しました。
- 次のページをご覧ください。

- 第一生命の営業職チャネルによる販売は順調、年換算保険料は新契約・保有契約ともに増加
- 金融環境の変動に伴い、最低保証リスク関連損益・市場価格調整に係る損益は悪化したが、外貨建定額商品の販売拡大に伴い、変動要因を除く事業利益は安定推移

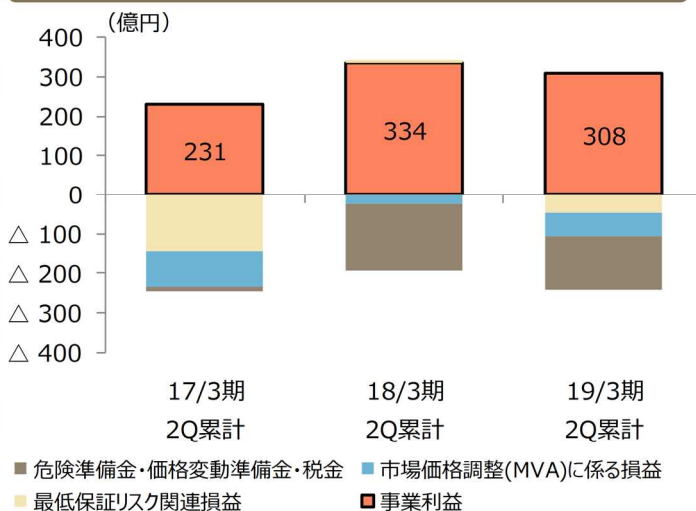
新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



純利益を構成する各損益指標



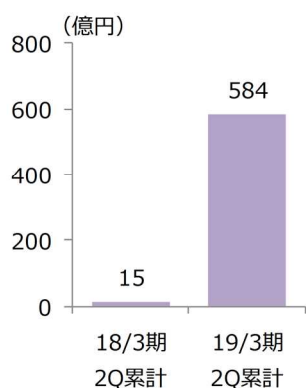
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
事業利益	334	308	△26
純利益	152	64	△88
修正利益	170	108	△61

注：事業利益は、純利益から最低保証リスク関連損益、市場価格調整(MVA)に係る損益、危険準備金の繰入等を除いた基礎的な収益力を表す内部管理指標です。

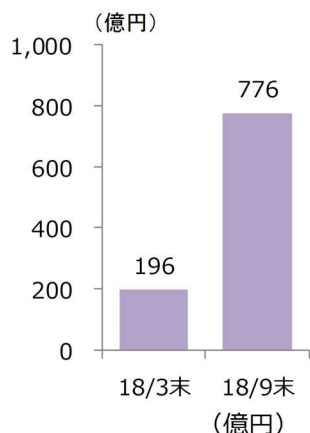
- 第一フロンティア生命の業績について説明します。
- 新契約年換算保険料が順調に拡大していますが、メガバンクに加えて地銀や第一生命の営業職による販売など、チャネル拡充が進展し、販売を伸ばしています。
- 右側のグラフでは純利益を構成する各損益の推移を示しています。前年度は内外金融環境が非常に好調であったため最低保証リスク関連損益がプラスとなりましたが、今年度はその影響が剥落したためマイナスに転じています。なお、事業利益は、前年度からやや減少していますが費差損益における前年度の一時的な上ぶれ要因の剥落に伴うものであり、この影響を除けば安定的に推移しています。
- 次のページをご覧ください。

- 医療保険の販売は順調に拡大、「ネオdeきぎょう」(3月発売)は、第一生命の代理店チャネルに加え、営業職による販売も開始

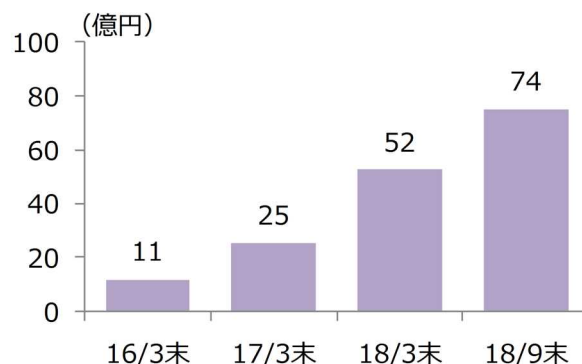
新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



第三分野保有契約年換算保険料

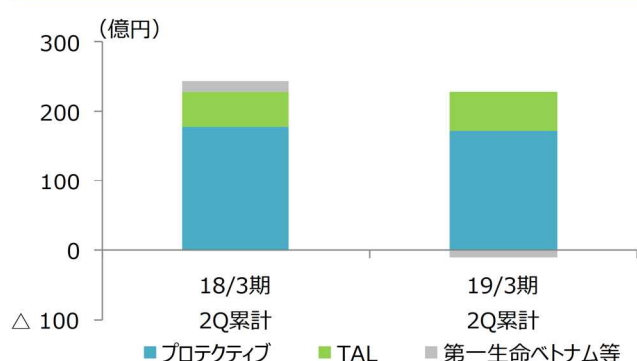


	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
保険料等収入	33	841	+808
純利益	△36	△36	△0
修正利益	△36	△36	△0

- ネオファースト生命の業績について説明します。
- 今年3月から法人向け保険商品「ネオdeきぎょう」を発売し、主に第一生命の訪問型代理店チャネルで販売していましたが、8月以降は営業職による販売も開始し、保有契約年換算保険料は大幅に拡大しました。銀行窓販や乗合代理店等で販売される医療保険も順調に販売を伸ばしています。
- 業績面では、営業業績の拡大に伴う費用増により経常損失を計上していますが、損失額は前年並みに抑えられています。
- 次のページをご覧ください。

- 海外生命保険事業では、プロテクト及びTALが概ね前年並みの利益を確保。一方、第一生命ベトナムは金利低下で責任準備金繰入額が増加
- アセットマネジメント事業では、第2四半期からジャナス・ヘンダーソンの持分損益が貢献

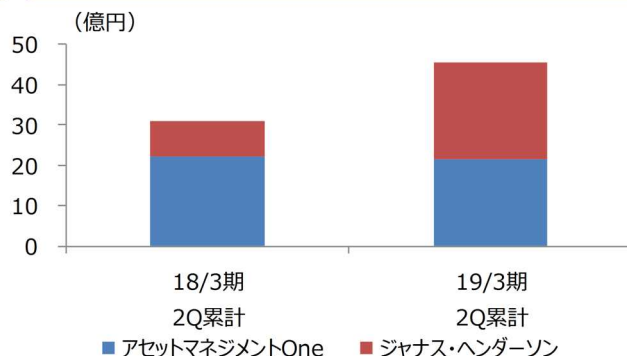
海外生命保険事業純利益



<海外生命保険事業純利益>

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計
プロテクト	178	172
TAL	49	55
第一生命ベトナム等	16	△ 11
海外生命保険事業	244	216

アセットマネジメント事業純利益



<アセットマネジメント事業純利益>

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計
アセットマネジメントOne	22	21
ジャナス・ヘンダーソン ^(注)	8	23
アセットマネジメント事業	31	45

(注) 18/3期のジャナス・ヘンダーソン持分利益は合併前のジャナス・キャピタルに対する20%の持分損益を示しています。

- 海外生命保険事業、アセットマネジメント事業の利益を円建てでお示ししています。
- プロテクトとTALの利益は概ね前年並みでしたが、第一生命ベトナムでは、市中金利の低下により責任準備金の追加繰入を行い、これを主な要因として海外生命保険事業の利益は減少しています。
- アセットマネジメント事業では、5月からジャナス・ヘンダーソンが持分法適用関連会社となったことで、利益貢献が大きく拡大しています。
- 次のページをご覧ください。

■ 生保事業、買収事業、年金事業の減益をステーブルバリュー事業やアセットプロテクション事業の増益で一部相殺

<生保事業>

- 保険金等支払の増加や、再保険料の上昇の影響をユニバーサル保険の収益増加で一部相殺

<買収事業>

- 既契約ブロックの契約満了に伴う減益要因を、リバティ・ライフ買収効果の貢献で一部相殺

<年金事業>

- 保険請求は改善したものの、上半期の繰延新契約費のアンロッキングの影響や、最低保証年金額評価額の上昇により減益

<ステーブルバリュー事業>

- 前年同期を上回る受託残高や、モーゲージローンからの収益が増加したことで増益

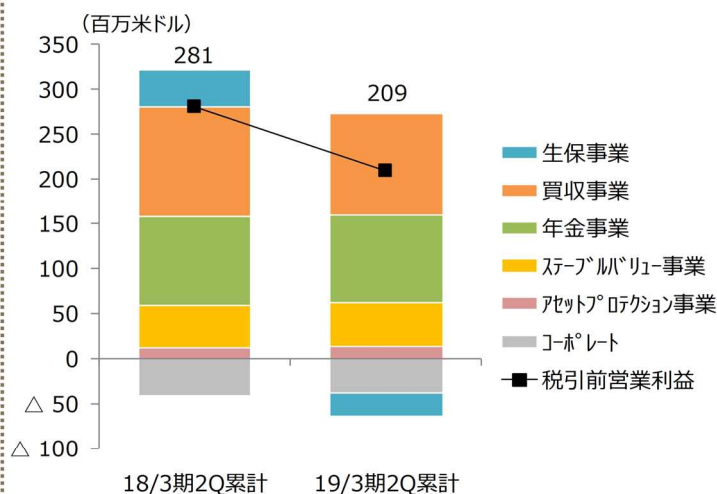
<アセットプロテクション事業>

- 良好な損害率や、運用収益の増加により増益

(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
税引前営業利益 (百万米ドル)	281	209	△72
純利益	178	172	△6
修正利益	178	172	△6

税引前営業利益

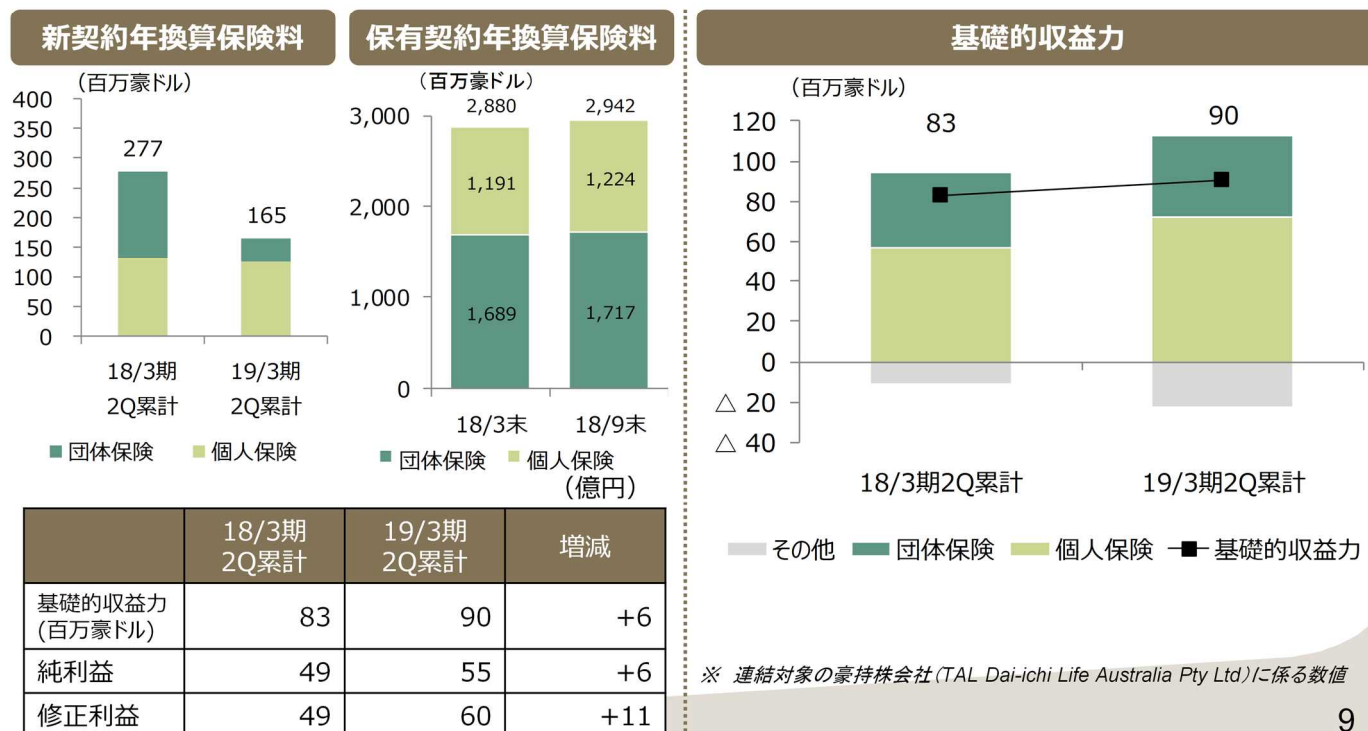


※ 米プロテクティブの決算日は12月31日です。

※ 税引前営業利益(Pre-tax Adjusted Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

- プロテクティブの業績について説明します。
- 税引前営業利益は生保事業、買収事業、年金事業で前年同期を下回りました。生保事業については、第1四半期のインフルエンザの影響に加え、第2四半期は高額の保険金支払が発生し、赤字となっていますが、直近では赤字幅は縮小しています。買収事業では、5月に買収を完了したリバティ・ライフの契約ブロックの影響が一部反映されたことで、既契約ブロックの満了に伴う収益減の影響を一部相殺しています。また、ステーブルバリュー事業が受託残高の増加と運用収支の改善により増益となり、こちらも他セグメントの減益を一部相殺しています。
- 次のページをご覧ください。

■ 保有契約年換算保険料は安定的に増加、基礎的収益力も増益を維持



- TALの業績について説明します。
- オーストラリアの個人保険市場においては厳しい環境が継続しており、TALの個人保険部門における新契約は前年同期比で5%減少しました。団体保険部門では、大型契約を複数獲得した前年同期に比べると減少しています。保有契約年換算保険料は前年同期比で3%増加しました。
- 基礎的収益力は、個人保険部門の保険金支払が前年同期を下回ったこと等により、前年同期比8%増となりました。
- 次に11ページをご覧ください。

業績ガイダンス

■ 業績予想は据え置き

(億円)

	18/3期	19/3期(予)	増減
連結経常収益	70,378	64,290	△ 6,088
第一生命	37,919	36,210	△ 1,709
第一フロンティア生命	18,094	14,290	△ 3,804
プロテクトティブ(百万米ドル)	9,772	9,190	△ 582
TAL(百万豪ドル)	3,769	3,830	+ 60
連結経常利益	4,719	4,140	△ 579
第一生命	3,588	3,300	△ 288
第一フロンティア生命	608	250	△ 358
プロテクトティブ(百万米ドル)	435	470	+ 34
TAL(百万豪ドル)	199	200	+ 0
連結純利益⁽¹⁾	3,639	2,200	△ 1,439
第一生命	1,699	1,650	△ 49
第一フロンティア生命	370	140	△ 230
プロテクトティブ(百万米ドル)	1,106	370	△ 736
TAL(百万豪ドル)	128	140	+ 11
1株当たり配当金	50円	53円	+3円
グループ修正利益	2,432	2,300程度	△ 132
(参考:基礎利益)			
第一生命グループ	5,738	5,400程度	△ 338
第一生命	4,290	3,900程度	△ 390

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

- 第一生命の進捗が高くなっていますが、19年3月期の業績予想につきましては、下半期の金融市場環境や、その他子会社の動向を見守る必要があると考え、据え置きとしています。グループ修正利益も据え置きとしました。
- 1株当たり配当は引き続き、3円増配の53円を予想しています。
- 次にグループEEVについて説明します。13ページをご覧ください。

グループEEV

- グループEEVは約5,000億円の増加。新契約の獲得やプロテクティブによる保険契約ブロック買収の効果約380億円に加え、市場要因により増加

【第一生命グループ】

(億円)

	18/3末	18/9末	増減
グループEEV	60,941	65,767	+ 4,826
対象事業 (covered business) のEEV ⁽¹⁾	63,208	66,913	+ 3,704
修正純資産	67,239	63,875	△ 3,363
保有契約価値	△ 4,030	3,037	+ 7,068
対象事業以外の純資産等に係る調整 ⁽²⁾	△ 2,266	△ 1,145	+ 1,121

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
新契約価値	978	914	△ 63

(1) 対象事業 (covered business) とは、EEV原則で定められているEV手法を適用した範囲のことで、EEV原則では、対象事業のEEVを開示することを求めています。第一生命グループでは、従前は、第一生命グループが行うすべての事業を対象事業としていましたが、2016年10月1日付の持株会社体制移行後は、生命保険事業を行う子会社（第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、プロテクティブ、TAL、第一生命ベトナムおよびこれらの子会社）を対象事業としました。

(2) 「対象事業以外の純資産等に係る調整」には、第一生命ホールディングスの単体貸借対照表の純資産の部（18/3末：12,093億円、18/9末：12,858億円）、第一生命ホールディングスの生命保険事業子会社6社に対する出資に係る調整（18/3末：△14,710億円、18/9末：△14,186億円）、第一生命ホールディングスが保有する資産・負債を時価評価する調整が含まれます。

- 2018年9月末のグループEEVは6.5兆円となりました。新契約の獲得や、プロテクティブによるリバティ・ライフの契約ブロック買収によるEV押し上げ効果が約380億円貢献しているほか、株高・金利上昇などの市場要因によりEVは3月末比で約5,000億円増加しました。
- 新契約価値は前年同期の978億円から微減の914億円となりました。
- 次のページをご覧ください。

【グループ各社のEEV】

(億円)				(億円)			
第一生命	18/3末	18/9末	増減	プロテクト	17/12末	18/6末	増減
EEV	48,870	51,721	+ 2,850	EEV	6,586	6,823	+ 236
修正純資産	58,781	56,074	△ 2,706	修正純資産	4,421	3,859	△ 561
保有契約価値	△ 9,910	△ 4,353	+ 5,557	保有契約価値	2,165	2,963	+ 798
				※換算為替レート(円/米ドル)			
				113.00 110.54			
第一フロンティア生命	18/3末	18/9末	増減	TAL	18/3末	18/9末	増減
EEV	4,019	4,197	+ 178	EEV	2,820	2,935	+ 115
修正純資産	2,439	2,245	△ 194	修正純資産	1,329	1,374	+ 45
保有契約価値	1,579	1,951	+ 372	保有契約価値	1,491	1,561	+ 69
				※換算為替レート(円/豪ドル)			
				81.66 81.83			
ネオファースト生命	18/3末	18/9末	増減	第一生命ベトナム	17/12末	18/6末	増減
EEV	507	770	+ 262	EEV	613	671	+ 58
修正純資産	187	251	+ 63	修正純資産	289	276	△ 13
保有契約価値	319	518	+ 198	保有契約価値	323	395	+ 71
				※換算為替レート(円/越ドン)			
				0.0050 0.0048			

(注) プロテクト、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

※ 第一生命ベトナムは伝統手法による評価

- グループ各社のEVをお示ししています。
- 第一生命は新契約の獲得と、株価上昇に伴う含み益増加により増加しています。第一フロンティア生命は販売量の増加に加え、運用スプレッドの実現により増加しました。プロテクトは買収効果等により増加しています。
- 次のページをご覧ください。

グループ各社の新契約価値 (1)

- 第一生命は上半期に既存顧客向け保障見直しを中心に販売したことにより前年同期比減少、下半期は新規顧客向けに販売を強化
- 第一フロンティア生命は商品ミックスの変化により新契約価値は減少したが、将来に実現が見込まれる超過収益は増加しており、グループ E E V への貢献度は高まる見通し

(億円)

		18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
第一生命グループ	新契約価値 (A)	978	914	△ 63
	収入保険料現価 (B)	20,414	25,934	+ 5,519
	新契約マージン (A/B)	4.79%	3.53%	△ 1.27ポイント
第一生命	新契約価値	796	601	△ 195
	収入保険料現価	10,432	9,275	△ 1,157
	新契約マージン	7.64%	6.48%	△ 1.16ポイント
第一フロンティア生命	新契約価値	71	47	△ 24
	収入保険料現価	5,558	8,682	+ 3,123
	新契約マージン	1.29%	0.55%	△ 0.75ポイント
ネオファースト生命	新契約価値	△ 8	156	+ 164
	収入保険料現価	189	3,149	+ 2,960
	新契約マージン	△ 4.22%	4.96%	+ 9.18ポイント
	新契約価値(均衡事業費ベース)	26	159	+ 133
	新契約マージン(均衡事業費ベース)	14.12%	5.08%	△ 9.04ポイント

15

- ここではグループ各社別の新契約価値・新契約マージンを掲載しています。
- 第一生命が3月から発売した主力商品「ジャスト」の契約は、既存のお客さまの保障の見直しとなりました。このため、新契約価値は前年同期比で減少しましたが、下半期は若年層を中心に新規顧客への販売強化を開始しています。
- 第一フロンティア生命は商品ミックスの変化により新契約価値は減少しましたが、将来に実現が見込まれる超過収益は増加しており、グループ EEV への貢献度は高まる見通しです。これについては後に補足します。
- ネオファースト生命は、競争力のある医療保険と、第一生命の代理店網に投入した企業経営者向け保険の販売が好調で、新契約価値を伸ばしました。
- 次のページをご覧ください。

グループ各社の新契約価値 (2)

(億円)

		18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
プロテクティブ	新契約価値	△ 4	7	+ 12
	収入保険料現価	2,582	3,153	+ 570
	新契約マージン	△ 0.19%	0.24%	+ 0.43ポイント
TAL	新契約価値	121	68	△ 53
	収入保険料現価	1,651	1,251	△ 400
	新契約マージン	7.39%	5.51%	△ 1.88ポイント
第一生命ベトナム ⁽¹⁾	新契約価値		32	
	収入保険料現価		421	
	新契約マージン		7.81%	

(参考)

関連会社2社の 新契約価値 ⁽²⁾	新契約価値		2	
	収入保険料現価		96	
	新契約マージン		2.50%	

関連会社2社の2018年9月末のEV残高は287億円

関連会社2社を含むグループ新契約価値		916	
--------------------	--	-----	--

(注) プロテクティブ、第一生命ベトナム、パニン・第一ライフの決算日は12月31日です。TAL、スター・ユニオン・第一ライフの決算日は3月31日です。

(1) 2017年度末よりグループ新契約価値に第一生命ベトナムの新契約価値を含めています。

(2) スター・ユニオン・第一ライフとパニン・第一ライフの新契約価値・EVに対する当社持分を計算しています。

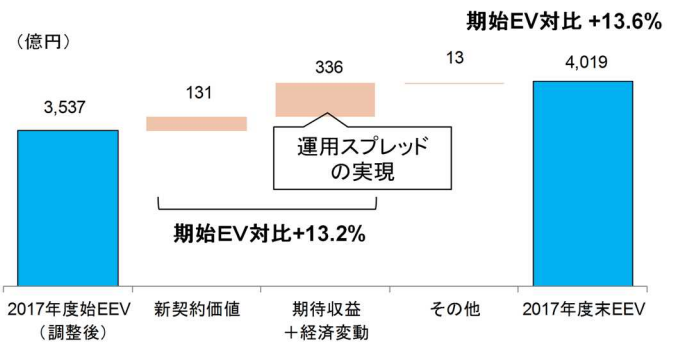
- プロテクティブの新契約価値はEVの規模に比べて小さくなっていますが、割引の解放と共に社債スプレッド部分等の利益によりEVが増加する構造となっており、これについては後に補足します。また、プロテクティブが今年5月に買収を完了したリバティ・ライフの契約ブロックについては約380億円がEVの増加に貢献しています。
- TALの新契約価値は、前年に団体保険における大型契約が集中したことの反動により減少しています。TALは9月にサンコープ・ライフ買収で合意しています。取引完了に向けて手続きを進めていますが、完了すれば、これもEV増加に貢献するものと考えています。
- 次のページをご覧ください。

- グループ各社で販売商品・事業特性・評価アプローチが異なり、新契約価値に加えて成長に貢献する要素がある

第一フロンティア生命

第一フロンティア生命は、マッチング運用により米社債スプレッドを保険期間に渡って確保し、価格競争力のある商品販売を展開。このため新契約価値は小さくなるが、期間経過に伴う運用スプレッドの利益への実現に応じてEVに反映される。

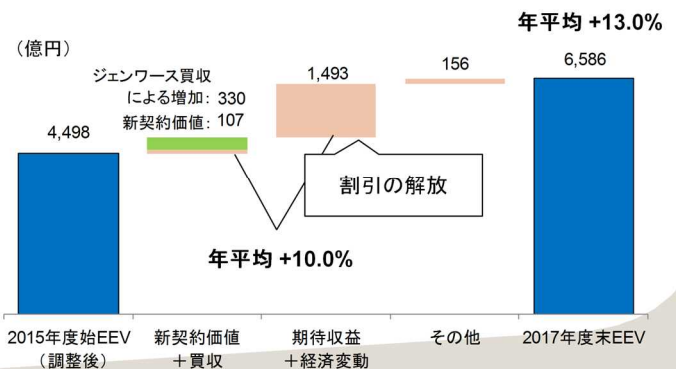
- ✓ 18年度は米国金利上昇に伴い、米ドル建商品の販売が主流となっており、傾向が顕著に。



プロテクト

プロテクトのEVはトップダウン手法で評価しており、割引率が高いため、期待収益（割引の解放）によりEVは成長する。また、既契約ブロック等買収による成長をビジネスモデルとしており、主な成長要因になっている。

- ✓ 18年度はリバティ・ライフの既契約ブロック買収によりEVは約380億円増加。



※過去の変動要因分析の実績を、増減要因別に累計したもの

17

- 第一フロンティア生命では、外貨建て定額商品の販売が高い伸びを見せています。また今年度は米国金利が上昇しており、これを背景に米ドル建て商品の販売が中心になっています。第一フロンティア生命ではデュレーション・マッチング運用を行っていますが、米国市場は日本やオーストラリアに比べて社債市場が充実しており、資産運用は国債中心から社債中心にシフトしています。この結果、フロンティア生命は競争力のある商品設計を維持しながら、収益もしっかり確保するビジネスモデルを維持しています。ただし、社債運用によるスプレッド部分は新契約価値には反映されておらず、運用期間における超過収益の実現に応じてEVに貢献することになります。
- 評価手法は異なりますが、プロテクトも第一フロンティアと同様、新契約価値以外の部分でEVに貢献する構造となっております。プロテクトのEVは、社債運用のスプレッドを将来の価値に織り込む一方、リスクフリーレートより高い割引率を適用する「トップダウン手法」で評価しているため、新契約価値は小さい代わりに、スプレッドが割引の解放としてEV増加に貢献します。また既契約ブロック等買収による成長をビジネスモデルとしており、会社の成長ドライバーになっています。
- このように、第一生命グループのEVは、新契約価値のみではなく、成長に貢献する要素があり、これが第一生命グループの強みであると考えています。
- 以上で私からの説明を終了します。
- 11月22日には弊社ビルにて決算・経営説明会を開催します。中期経営計画「CONNECT 2020」の進捗など社長の稲垣から説明させていただきますので、是非御参加ください。ありがとうございました。

第一生命グループ及び第一生命のE E V感応度（2018年9月末）

第一生命グループ

（単位：億円、上段：変化額、下段：EEVに対する変化率）

前提条件	EEV感応度	対象事業のEEV	修正純資産		対象事業以外の純資産等に係る調整	新契約価値
			修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	3,916 6%	3,875 6%	△ 13,780 △ 21%	17,656 27%	40 0%	85 9%
リスク・フリー・レート50bp低下	△ 5,140 △ 8%	△ 5,098 △ 8%	14,993 23%	△ 20,091 △ 31%	△ 41 △ 0%	△ 97 △ 11%
株式・不動産価値10%下落	△ 4,996 △ 8%	△ 4,843 △ 7%	△ 4,649 △ 7%	△ 193 △ 0%	△ 152 △ 0%	0 0%
第一生命グループのEEV	65,767	66,913			△ 1,145	914

第一生命

（単位：億円、上段：変化額、下段：EEVに対する変化率）

前提条件	EEV感応度	修正純資産		新契約価値
		修正純資産	保有契約価値	
リスク・フリー・レート50bp上昇	3,964 8%	△ 12,191 △ 24%	16,156 31%	54 9%
リスク・フリー・レート50bp低下	△ 5,154 △ 10%	13,331 26%	△ 18,486 △ 36%	△ 67 △ 11%
株式・不動産価値10%下落	△ 4,697 △ 9%	△ 4,725 △ 9%	28 0%	0 0%
第一生命のEEV	51,721			601

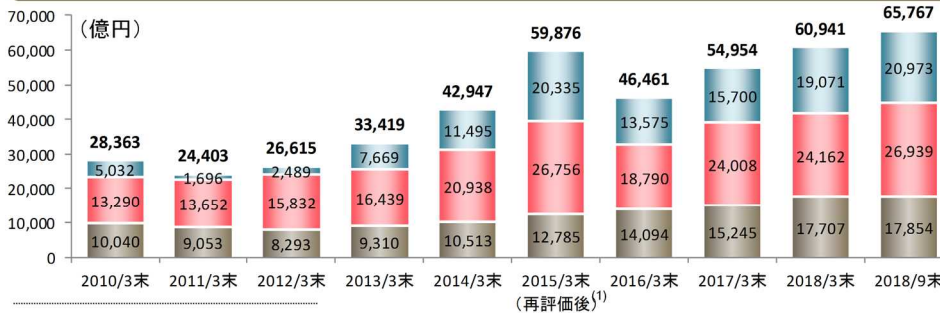
第一生命グループのEEV(億円)

	18/3末	18/9末	増減
グループEEV	60,941	65,767	+4,826
対象事業(covers business)のEEV	63,208	66,913	+3,704
修正純資産	67,239	63,875	△3,363
保有契約価値	△4,030	3,037	+7,068
対象事業以外の純資産等に係る調整	△2,266	△1,145	+1,121

資産・負債の対応を考慮した再分類

	18/3末	18/9末
グループEEV	60,941	65,767
確定利付資産以外の含み損益等 ⁽²⁾	19,071	20,973
保有契約価値+確定利付資産の含み損益等 ⁽³⁾	24,162	26,939
純資産等+負債中の内部留保 ⁽⁴⁾	17,707	17,854

第一生命グループのEEV推移【資産・負債の対応を考慮した再分類】



保有契約価値+含み損益等
: 保険契約の保有により生じる将来利益

確定利付資産以外の含
み損益等⁽²⁾

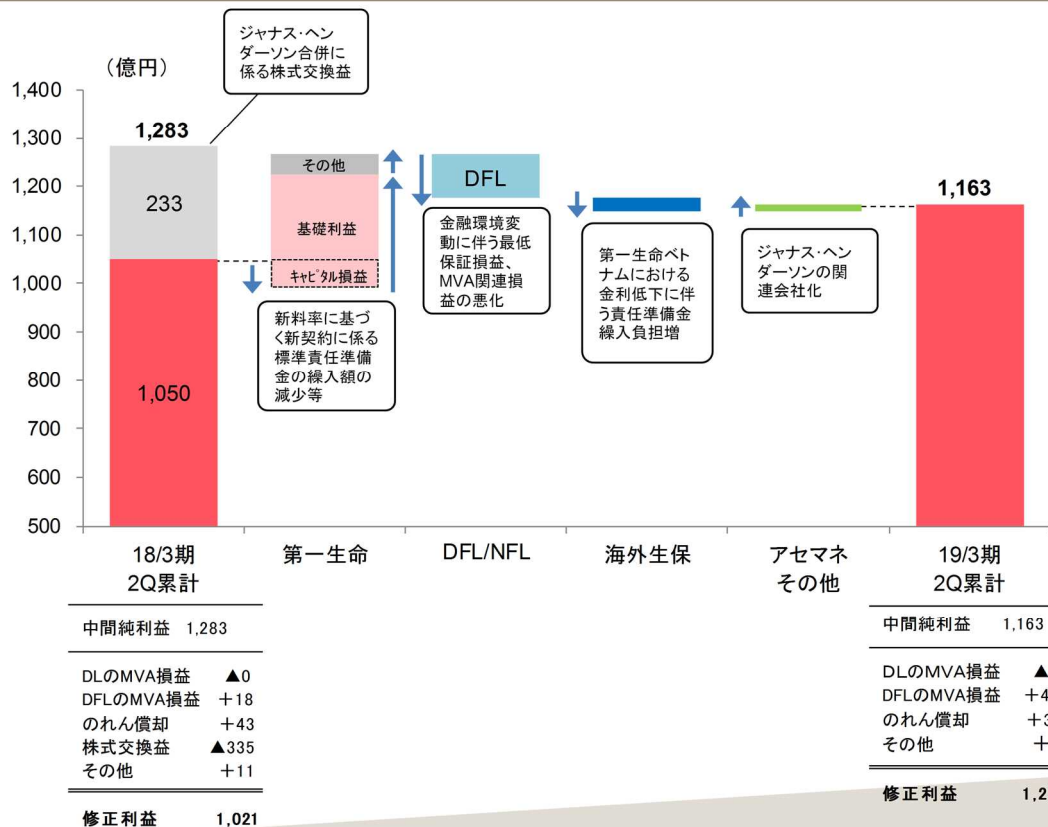
保有契約価値+確定利
付資産の含み損益等⁽³⁾

純資産等
+ 負債中の内部留保⁽⁴⁾
: 実現利益の累積額に相当

- (1) 2015/3末のEEVは、終局金利を用いた方法による再評価後の数値を記載しております。
- (2) 第一生命が保有する確定利付資産以外の資産(株式、外貨建債券(ヘッジ外債を除く)、不動産等)の含み損益等の額を計上しています。
- (3) 保有契約価値に、第一生命の確定利付資産ならびに第一フロンティア生命およびネオファースト生命の資産の含み損益等を加算・調整した額を計上しています。本項目は、未実現利益のうち、主に金利の影響を受ける部分であり、金利水準等の変化に応じた、保有契約価値および確定利付資産の含み損益等の変動額は、お互いに相殺関係にあります。
- (4) 対象事業のEEVの修正純資産に対象事業以外の純資産等に係る調整を反映し、含み損益等を除いた額を計上しています。

参考データ

第一生命グループ業績 - 連結純利益変動要因



第一生命グループ業績 – 契約動向

新契約年換算保険料

保有契約年換算保険料

(億円)

<参考> 国内生命保険事業
会社別・チャネル別新契約年換算保険料

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	前年 同期比	18/3末	18/9末	前期末比
国内3社計	1,461	2,102	+43.8%	28,955	29,992	+3.6%
第一生命	545	460	▲15.5%	21,458	21,360	▲0.5%
第三分野	363	278	▲23.5%	6,479	6,592	+1.7%
第一フロンティア生命	901	1,056	+17.2%	7,300	7,854	+7.6%
ネオファースト生命	15	584	+3761.6%	196	776	+294.5%
海外3社計	498	446	▲10.4% (▲7.2%)	7,756	7,976	+2.8% (+4.5%)
プロテクティブ ⁽¹⁾	185	204	+9.9% (+11.4%)	4,981	5,085	+2.1% (+4.4%)
TAL	245	135	▲44.7% (▲40.2%)	2,352	2,407	+2.3% (+2.1%)
第一生命ベトナム ⁽¹⁾	67	106	+58.0% (+61.3%)	422	483	+14.4% (+19.1%)
第一生命グループ計	1,960	2,549	+30.0% (+30.8%)	36,711	37,968	+3.4% (+3.8%)

(億円)

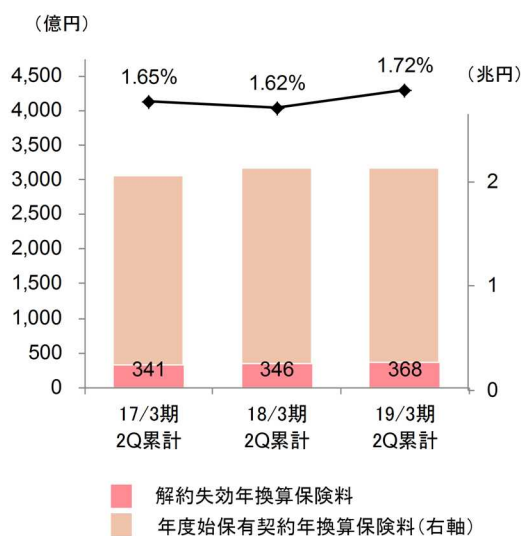
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
第一生命	545	460	△ 84
訪問型代理店	66	36	△ 30
第一フロンティア生命	901	1,056	+ 155
第一生命の営業職 同、訪問型代理店	90 3	159 6	+ 68 + 3
ネオファースト生命	15	584	+ 569
第一生命の営業職 同、訪問型代理店	- 1	34 517	+ 34 + 516
国内生保事業計	1,461	2,102	+ 640

上段は円換算、下段は現地通貨建の変化率
海外3社計、グループ計の下段は為替変動の影響を除く伸び率

(1) ミプロテクティブ、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

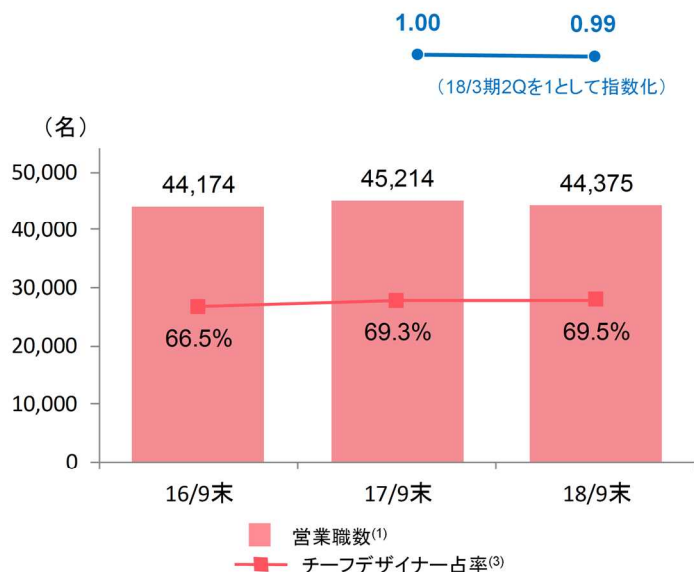
年換算保険料ベース解約失効 (個人保険・個人年金)

解約失効率



営業職数および生産性

一人あたり営業収益価値⁽²⁾



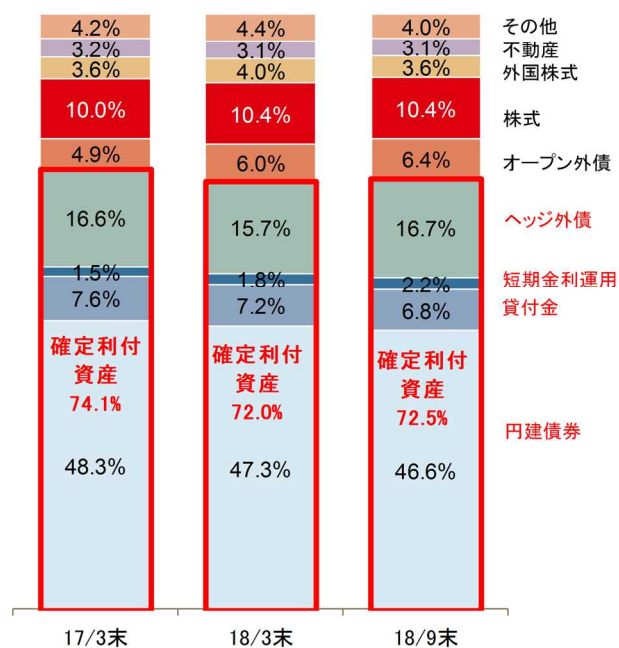
(1) 営業職については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。

(2) 各期間における営業収益価値を分子、各期間の営業職数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。
営業収益価値とは、営業部門の獲得収益を表す当社独自の指標であり、経済環境の変動要因を除外した新契約価値に相当します。

(3) 所定の成績水準を満たす、第一生命の中核たる営業職の占率を指します。

第一生命業績 – 一般勘定資産運用の状況 (1)

資産の構成 (一般勘定) (1)



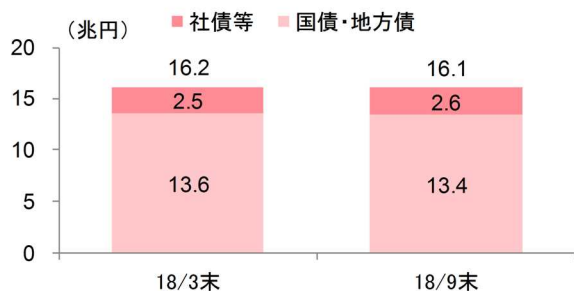
国内株式の簿価 (2)



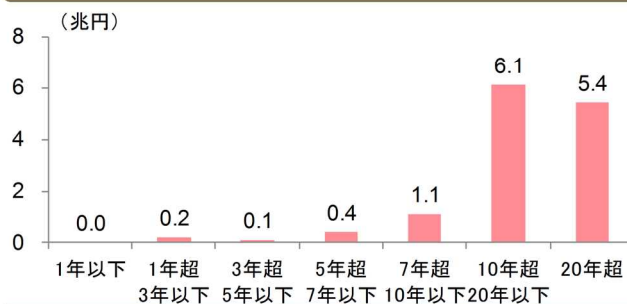
- (1) 貸借対照表価額ベース
 (2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)
 (3) 純投資目的以外の目的で保有する株式(非上場国内株式、みなし保有株式は除く)

第一生命業績 – 一般勘定資産運用の状況 (2) 保有債券の状況

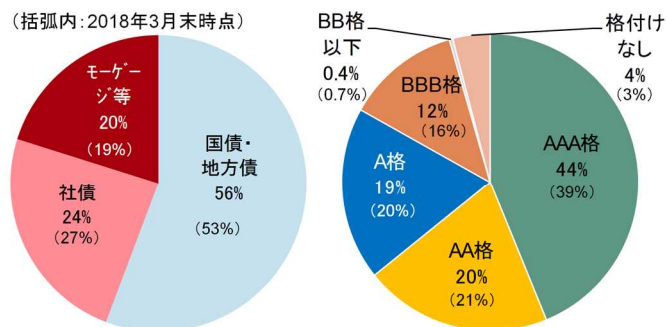
円建債券の内訳 (1)



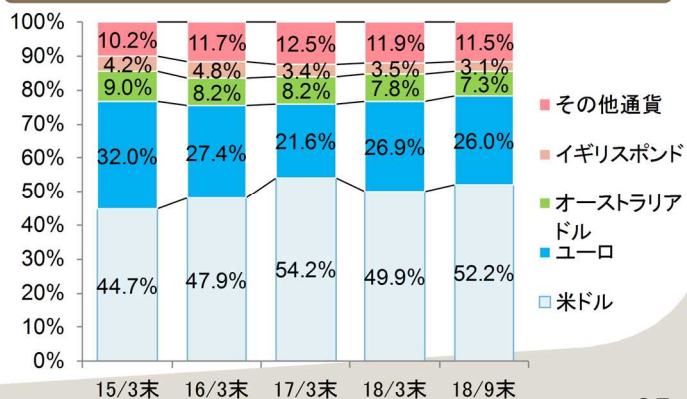
国債の残存期間別残高 (2) (2018年9月末)



外貨建債券の内訳 (2)(3) (2018年9月末)



外貨建債券の通貨別構成 (2)

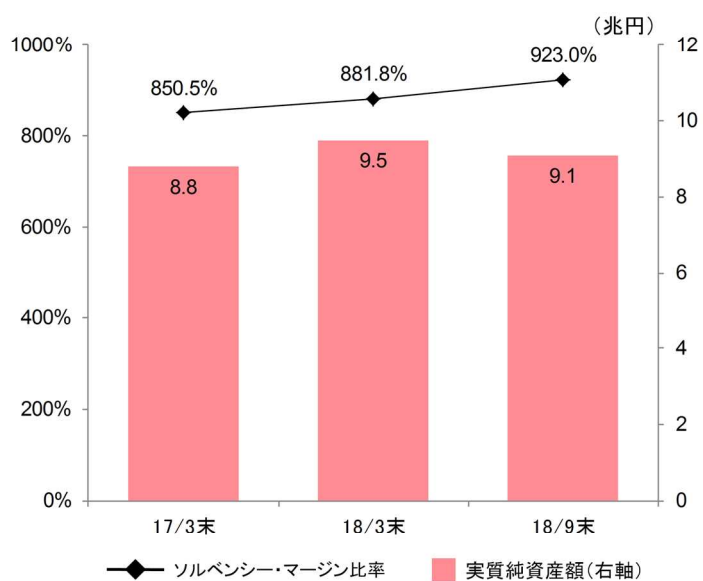


- (1) 簿価ベース
 (2) 貸借対照表価額ベース
 (3) 格付けはS&P・Moody'sの2社の格付け機関による格付けの中間の評価を採用、モーゲージ等を除く

含み損益（一般勘定）

	(億円)		
	18/3末	18/9末	増減
有価証券	58,271	54,365	△3,906
国内債券	32,296	27,616	△4,679
国内株式	20,159	20,612	+453
外国債券	4,140	4,051	△88
外国株式	1,411	1,776	+364
不動産	2,182	2,465	+283
その他共計	60,491	56,623	△3,868

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



<参考> 第一生命ホールディングスの
連結ソルベンシー・マージン比率:
2018年9月末 832.5%

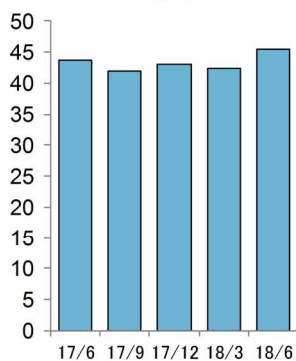
	感応度 ⁽¹⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 1,500億円の増減 (2018年3月末: 1,700億円)	日経平均株価 ¥10,000 (2018年3月末: ¥9,500)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 2,500億円の増減※ (2018年3月末: 2,600億円) ※その他有価証券区分: 300億円の増減 (2018年3月末: 300億円)	10年国債利回り 1.2%※ (2018年3月末: 1.2%) ※その他有価証券区分: 1.4% (2018年3月末: 1.4%)
外国証券	ドル／円 1円の変動で 270億円の増減 (2018年3月末: 270億円)	ドル／円 \$1 = ¥107 (2018年3月末: ¥103)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度を記載しています。

(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準を記載しています。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準を記載しています。

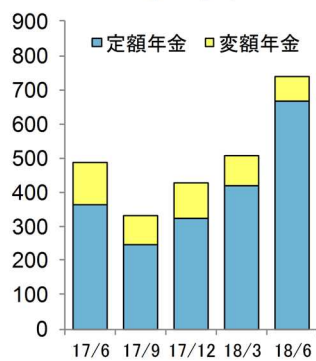
営業業績（百万米ドル）

生保事業



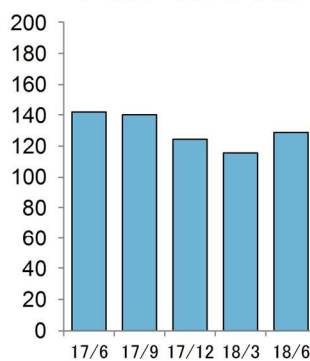
（四半期）
※ 年換算保険料等をベースに集計

年金事業



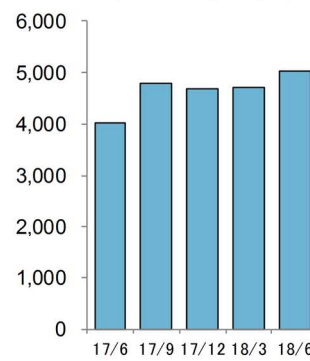
（四半期）
※ 掛金収入等をベースに集計

アセットプロテクション事業



（四半期）
※ 一時払保険料及び手数料をベースに集計

（期末顧客勘定残高）
ステーブルバリュー事業



（四半期末）

業績ハイライト（１）

（百万米ドル）

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	前年同期比	
生保事業	42.1	△ 25.5	△ 67.7	--
買収事業	121.9	114.5	△ 7.3	△ 6.1%
年金事業	99.5	96.4	△ 3.1	△ 3.1%
ステーブルハバリュー事業	46.2	49.0	+ 2.8	+ 6.1%
アセットプロテクション事業	12.1	13.3	+ 1.2	+ 10.3%
コーポレート	△ 40.5	△ 38.4	+ 2.1	+ 5.2%
税引前営業利益 ⁽²⁾	281.5	209.4	△ 72.1	△ 25.6%
キャピタル損益（運用収支）	92.3	△ 151.7	△ 244.1	--
キャピタル損益（金融派生商品損益）	△ 135.7	132.9	+ 268.7	--
法人税等	△ 78.4	△ 34.9	+ 43.4	+ 55.4%
当期利益	159.6	155.6	△ 4.0	△ 2.6%

<参考>

	17/6末	18/6末
為替レート（米ドル）	112.00	110.54

(1) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。

(2) 税引前営業利益(Pre-tax Adjusted Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

新契約年換算保険料

(百万豪ドル)				
	17/3期 2Q累計	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
個人保険				
新契約	73	70	66	△ 4
既契約増減	50	61	58	△ 2
小計	124	132	125	△ 7
団体保険				
新契約	5	160	21	△ 138
既契約増減	△23	△15	18	+34
小計	△18	145	40	△ 104
合計	106	277	165	△ 111

※既契約増減は契約更新や料率改訂等に伴う既契約の年換算保険料の増減を示す

純利益と基礎的収益力の差異

(百万豪ドル)			
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	前年比
純利益(A) ⁽²⁾	55	67	+22%
修正額(B)	27	22	
うち負債割引率の変化	△ 3	△ 2	
うち償却負担	10	9	
うち優先株配当	4	4	
その他	16	10	
基礎的収益力=(A)+(B) (Underlying profit)	83	90	+8%

<参考>

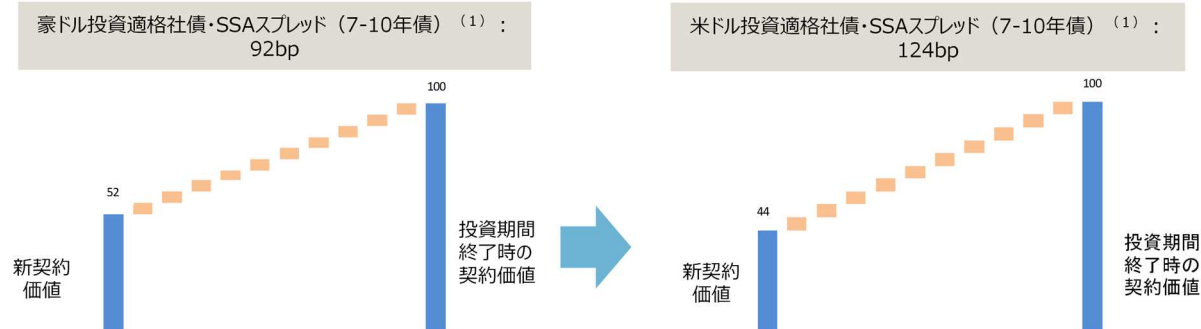
	17/9末	18/9末
為替レート(豪ドル)	88.47円	81.83円

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd.)に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。

- 米国金利上昇に伴い、今年度第2四半期は米ドル建て商品が主流に
- マッチング運用により米社債スプレッドを保険期間に渡って確保し、価格競争力のある商品販売を展開
- 新契約価値は低下するが、期間経過に伴い超過収益の実現に応じてEV・収益に貢献

通貨ミックスの変化に伴うEVへの影響イメージ



<第一フロンティア生命のEV変動要因分析>

(億円)

	17/3期 通期	18/3期 通期	18/3期 中間期	19/3期 中間期
前計算期末EV(調整後)	3,032	3,537	3,537	4,019
新契約価値	175	131	71	47
期待収益 ⁽²⁾	258	366	172	189
当計算期末EV	3,537	4,019	3,892	4,197
EV成長率(新契約価値)	5.8%	3.7%	2.0%	1.2%
EV成長率(期待収益)	8.5%	10.3%	4.9%	4.7%
EV成長率(新契約価値および超過収益)	14.3%	14.1%	6.9%	5.9%

(1) 2018/9末時点で発行されている債券の発行通貨別・時価加重平均スプレッド。なお、SSAは国際機関債、政府系機関債等を指す。出所:ブルームバーグ
(2) 18年3月期中間期および19年3月期中間期の期待収益は概算値

第一生命グループ業績 – 連結主要業績（要約）



連結損益計算書

(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
経常収益	33,648	35,969	+2,321
保険料等収入	22,223	25,917	+3,693
資産運用収益	9,905	8,864	△1,041
うち利息・配当金等収入	5,958	6,108	+149
うち有価証券売却益	958	1,370	+411
うち金融派生商品収益	-	-	-
うち為替差益	505	391	△113
うち特別勘定資産運用益	1,349	897	△452
その他経常収益	1,518	1,187	△330
経常費用	31,526	33,806	+2,280
うち保険金等支払金	17,935	18,049	+114
うち責任準備金等繰入額	7,279	8,760	+1,480
うち資産運用費用	1,494	1,785	+291
うち有価証券売却損	542	761	+218
うち有価証券評価損	18	31	+12
うち金融派生商品費用	408	355	△53
うち為替差損	-	-	-
うち特別勘定資産運用損	-	-	-
うち事業費	3,189	3,493	+303
経常利益	2,121	2,162	+40
特別利益	337	21	△315
特別損失	113	141	+27
契約者配当準備金繰入額	459	403	△56
税金等調整前中間純利益	1,885	1,639	△245
法人税等合計	601	476	△125
非支配株主に帰属する中間純利益	-	-	-
親会社株主に帰属する中間純利益	1,283	1,163	△120

連結貸借対照表

(億円)

	18/3末	18/9末	増減
資産の部合計	536,030	558,024	+21,994
うち現預金・コール	10,558	12,426	+1,867
うち買入金銭債権	1,951	1,978	+27
うち有価証券	449,169	469,630	+20,460
うち貸付金	34,876	34,437	△439
うち有形固定資産	11,305	11,154	△151
うち繰延税金資産	12	7	△4
負債の部合計	498,537	521,526	+22,988
うち保険契約準備金	455,137	476,126	+20,988
うち責任準備金	445,977	466,866	+20,889
うち社債	9,689	9,384	△304
うちその他負債	19,981	23,060	+3,078
うち退職給付に係る負債	4,131	4,199	+67
うち価格変動準備金	1,957	2,067	+109
うち繰延税金負債	3,578	3,135	△443
純資産の部合計	37,492	36,497	△994
うち株主資本合計	15,896	16,306	+410
うちその他の包括利益累計額合計	21,583	20,179	△1,403
うちその他の有価証券評価差額金	22,381	21,387	△994
うち土地再評価差額金	△124	△130	△6

以下の項目については、責任準備金の戻入/繰入や関連する資産の含み益/損等と相殺されるものを含みます。これらについては益又は損が発生するものの、業績に大きな影響を与えるものではありません。

(特別勘定資産運用益/損 為替差益/損 金融派生商品収益/費用)

損益計算書

(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
経常収益	18,158	18,277	+119
保険料等収入	11,059	11,201	+142
資産運用収益	5,771	6,022	+250
うち利息・配当金等収入	4,204	4,102	△101
うち有価証券売却益	917	1,338	+420
うち金融派生商品収益	-	-	-
うち特別勘定資産運用益	492	481	△10
その他経常収益	1,327	1,053	△273
経常費用	16,577	16,486	△90
うち保険金等支払金	10,782	10,792	+10
うち責任準備金等繰入額	865	421	△444
うち資産運用費用	1,456	1,865	+409
うち有価証券売却損	516	753	+236
うち有価証券評価損	6	24	+18
うち金融派生商品費用	263	396	+132
うち為替差損	314	362	+47
うち特別勘定資産運用損	-	-	-
うち事業費	2,044	1,944	△99
経常利益	1,581	1,791	+210
特別利益	1	21	+19
特別損失	94	115	+21
契約者配当準備金繰入額	459	403	△56
税引前中間純利益	1,028	1,293	+265
法人税等合計	302	353	+50
中間純利益	725	940	+214

貸借対照表

(億円)

	18/3末	18/9末	増減
資産の部合計	363,391	366,087	+2,695
うち現預金・コール	6,386	8,149	+1,763
うち買入金銭債権	1,911	1,948	+37
うち有価証券	309,611	312,651	+3,039
うち貸付金	25,623	24,346	△1,276
うち有形固定資産	11,161	11,017	△143
うち繰延税金資産	-	-	-
負債の部合計	334,509	338,106	+3,597
うち保険契約準備金	309,538	309,709	+170
うち責任準備金	304,072	304,451	+379
うち危険準備金	5,984	5,984	-
うち社債	4,762	4,762	-
うちその他負債	10,547	14,419	+3,872
うち退職給付引当金	3,929	3,997	+67
うち価格変動準備金	1,814	1,899	+85
うち繰延税金負債	2,037	1,983	△54
純資産の部合計	28,882	27,980	△902
うち株主資本合計	6,960	6,048	△911
うち評価・換算差額等合計	21,922	21,931	+9
うちその他有価証券評価差額金	22,138	22,337	+198
うち土地再評価差額金	△124	△130	△6

第一フロンティア生命財務諸表（要約）



損益計算書

	(億円)		
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
経常収益	8,729	11,051	+2,322
うち保険料等収入	6,373	9,141	+2,767
うち資産運用収益	2,355	1,910	△445
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益	-	-	-
うち為替差益	802	753	△49
経常費用	8,464	10,908	+2,443
うち保険金等支払金	3,341	3,318	△22
うち責任準備金等繰入額（△は戻入）	4,693	6,977	+2,283
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額	△145	△75	+70
うち危険準備金繰入額	54	55	+0
うち資産運用費用	144	180	+35
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失	207	180	△27
うち為替差損	-	-	-
うち事業費	251	377	+126
経常利益（△は損失）	264	142	△121
特別利益	-	-	-
特別損失	19	24	+5
法人税等合計	92	54	△38
純利益（△は損失）	152	64	△88
【参考】			
純利益	152	64	△88
最低保証リスク関連損益 ⁽¹⁾	9	△47	△57
市場価格調整（MVA）による損益 ⁽²⁾	△25	△61	△36
事業利益	334	308	△26
危険準備金繰入、価格変動準備金繰入、税金	△166	△134	+32

貸借対照表

	(億円)		
	18/3末	18/9末	増減
資産の部合計	75,346	82,544	+7,197
うち現預金	1,719	1,883	+163
うち有価証券	67,652	74,487	+6,834
負債の部合計	73,826	81,031	+7,205
うち保険契約準備金	71,103	78,081	+6,977
うち責任準備金	70,978	77,921	+6,942
うち危険準備金	1,219	1,275	+55
純資産の部合計	1,520	1,512	△7
うち株主資本合計	1,300	1,365	+64
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△549	△484	+64

- (1) 最低保証リスク関連損益には、最低保証リスクに係る責任準備金繰入額及び同ヘッジ損益に加え、変額商品の危険保険料や最低保証に係る支払、再保険収支等が含まれます（18/3期2Q累計：71億円、19/3期2Q累計：57億円）。
- (2) 市場価格調整（MVA）に係る責任準備金繰入／戻入のうち、資産運用損益勘定で相殺されて、経常利益に影響を及ぼさない部分は除いています。

以下の項目については、責任準備金の戻入／繰入や関連する資産の含み益／損等と相殺されるものを含みます。これらについては益又は損が発生するものの、業績に大きな影響を与えるものではありません。
（特別勘定資産運用益／損 為替差益／損 金融派生商品収益／費用）

米プロテktiv財務諸表（要約）

損益計算書(1)(2)

(百万米ドル)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
経常収益	4,909	4,265	△644
保険料等収入	2,701	2,773	+72
資産運用収益	1,966	1,260	△705
その他経常収益	242	230	△11
経常費用	4,671	4,073	△597
保険金等支払金	2,388	2,621	+232
責任準備金等繰入額	1,462	677	△784
資産運用費用	313	206	△107
事業費	419	434	+15
その他経常費用	87	133	+45
経常利益	237	191	△46
特別利益	0	-	△0
特別損失	0	0	+0
法人税等合計	78	34	△43
純利益	159	155	△4

貸借対照表(1)(2)

(百万米ドル)

	17/12末	18/6末	増減
資産の部合計	79,635	90,997	+11,361
うち現預金	395	256	△138
うち有価証券	60,193	70,329	+10,135
うち貸付金	8,435	9,244	+808
うち有形固定資産	119	114	△5
うち無形固定資産	2,819	3,139	+320
うちのれん	793	793	-
うちその他の無形固定資産	1,990	2,311	+321
うち再保険貸	182	235	+52
負債の部合計	72,508	84,952	+12,444
うち保険契約準備金	63,599	76,871	+13,271
うち再保険借	272	305	+33
うち社債	4,186	4,003	△182
うちその他負債	3,124	2,746	△377
純資産の部合計	7,127	6,044	△1,082
株主資本合計	7,114	7,048	△66
その他の包括利益累計額合計	12	△1,003	△1,016

(1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。

(2) 米プロテktivの決算日は12月31日です。

損益計算書 (1)(2)

(百万豪ドル)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
経常収益	1,890	1,855	△35
保険料等収入	1,790	1,745	△45
資産運用収益	60	45	△14
その他経常収益	40	64	+23
経常費用	1,808	1,757	△51
保険金等支払金	1,264	1,200	△63
責任準備金等繰入額	144	141	△3
資産運用費用	20	19	△1
事業費	316	339	+23
その他経常費用	62	56	△5
経常利益	82	98	+15
特別損益	-	△0	△0
法人税等合計	26	30	+3
純利益	55	67	+12
基礎的収益力 (Underlying profit)	83	90	+6

貸借対照表 (1)(2)

(百万豪ドル)

	18/3末	18/9末	増減
資産の部合計	6,099	6,250	+150
現預金	1,235	632	△602
有価証券	2,041	2,759	+718
有形固定資産	0	0	△0
無形固定資産	1,150	1,136	△13
のれん	786	786	-
その他無形固定資産	363	349	△13
再保険貸	129	107	△22
その他資産	1,542	1,613	+71
負債の部合計	3,699	3,807	+108
保険契約準備金	2,396	2,530	+133
再保険借	277	302	+25
社債	240	240	+0
その他負債	688	637	△51
繰延税金負債	96	96	+0
純資産の部合計	2,400	2,443	+42
株主資本合計	2,400	2,443	+42
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	769	812	+42

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております (基礎的収益力を除く)

主要企業別要約損益計算書

(億円)

	第一生命			第一フロンティア生命			ネオファースト生命			プロテクト			TAL			連結		
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
経常収益	18,158	18,277	+119	8,729	11,051	+2,322	33	841	+808	5,498	4,714	△783	1,672	1,518	△154	33,648	35,969	+2,321
保険料等収入	11,059	11,201	+142	6,373	9,141	+2,767	33	841	+808	3,025	3,066	+40	1,584	1,428	△155	22,223	25,917	+3,693
資産運用収益	5,771	6,022	+250	2,355	1,910	△445	0	0	+0	2,201	1,393	△808	53	37	△15	9,905	8,864	△1,041
うち利息・配当金等収入	4,204	4,102	△101	581	719	+137	0	0	+0	1,154	1,273	+118	15	3	△11	5,958	6,108	+149
うち有価証券売却益	917	1,338	+420	26	14	△11	-	-	-	14	16	+1	-	-	-	958	1,370	+411
うち金融派生商品収益 ⁽¹⁾	-	-	-	73	-	△73	-	-	-	-	99	+99	-	-	-	-	-	-
うち為替差益 ⁽¹⁾	-	-	-	802	753	△49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	505	391	△113
うち特別勘定資産運用益	492	481	△10	857	415	△441	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,349	897	△452
その他経常収益	1,327	1,053	△273	0	0	+0	0	0	△0	271	254	△16	35	52	+16	1,518	1,187	△330
経常費用	16,577	16,486	△90	8,464	10,908	+2,443	69	878	+808	5,231	4,503	△728	1,599	1,437	△161	31,526	33,806	+2,280
うち保険金等支払金	10,782	10,792	+10	3,341	3,318	△22	7	26	+18	2,675	2,897	+222	1,118	982	△136	17,935	18,049	+114
うち責任準備金等繰入額	865	421	△444	4,693	6,977	+2,283	9	534	+524	1,637	748	△889	127	115	△12	7,279	8,760	+1,480
うち資産運用費用	1,456	1,865	+409	144	180	+35	0	0	△0	351	228	△122	18	15	△2	1,494	1,785	+291
うち有価証券売却損	516	753	+236	20	0	△19	-	-	-	5	6	+1	-	-	-	542	761	+218
うち有価証券評価損	6	24	+18	-	-	-	-	-	-	11	4	△7	-	-	-	18	31	+12
うち金融派生商品費用	263	396	+132	-	58	+58	-	-	-	199	-	△199	-	-	-	408	355	△53
うち為替差損	314	362	+47	-	-	-	-	-	-	0	0	+0	0	0	△0	-	-	-
うち特別勘定資産運用損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち事業費	2,044	1,944	△99	251	377	+126	52	315	+263	469	480	+11	279	277	△2	3,189	3,493	+303
経常利益	1,581	1,791	+210	264	142	△121	△36	△36	△0	266	211	△55	72	80	+7	2,121	2,162	+40
特別利益	1	21	+19	-	-	-	0	-	△0	0	-	△0	-	-	-	337	21	△315
特別損失	94	115	+21	19	24	+5	0	0	△0	0	0	+0	-	0	+0	113	141	+27
契約者配当準備金繰入額	459	403	△56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	459	403	△56
税金等調整前当期純利益	1,028	1,293	+265	245	118	△126	△36	△36	△0	266	210	△56	72	80	+7	1,885	1,639	△245
法人税等合計	302	353	+50	92	54	△38	0	0	+0	87	38	△49	23	24	+1	601	476	△125
少数株主損益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
当期純利益	725	940	+214	152	64	△88	△36	△36	△0	178	172	△6	49	55	+6	1,283	1,163	△120

(1) 第一フロンティア生命の個別損益計算書について、デリバティブ取引のうち通貨スワップ取引の決済時に発生する収益(費用)を「為替差益(損)」から「金融派生商品収益(費用)」へと変更しております。これにより、前年同期に為替差益に計上していた金額のうち、18億円は金融派生商品収益に組み替えて表示しております。

主要企業別要約貸借対照表

(億円)

	第一生命			第一フロンティア生命			ネオファースト生命			プロテクトイブ			TAL			連結		
	18/3末	18/9末	増減	18/3末	18/9末	増減	18/3末	18/9末	増減	17/12末	18/6末	増減	18/3末	18/9末	増減	18/3末	18/9末	増減
資産の部合計	363,391	366,087	+2,695	75,346	82,544	+7,197	449	1,052	+602	89,987	100,588	+10,600	4,980	5,114	+133	536,030	558,024	+21,994
うち現金・コール	6,386	8,149	+1,763	1,719	1,883	+163	350	636	+285	446	283	△163	1,008	517	△491	10,558	12,426	+1,867
うち買入金銭債権	1,911	1,948	+37	40	30	△10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,951	1,978	+27
うち有価証券	309,611	312,651	+3,039	67,652	74,487	+6,834	24	94	+69	68,018	77,741	+9,722	1,666	2,258	+591	449,169	469,630	+20,460
うち貸付金	25,623	24,346	△1,276	-	-	-	-	0	+0	9,532	10,219	+686	2	2	+0	34,876	34,437	△439
うち有形固定資産	11,161	11,017	△143	2	3	+0	2	2	+0	135	126	△8	0	0	△0	11,305	11,154	△151
うち無形固定資産	992	1,032	+39	55	65	+10	0	0	+0	3,185	3,470	+285	939	929	△9	4,149	4,473	+323
負債の部合計	334,509	338,106	+3,597	73,826	81,031	+7,205	268	808	+539	81,934	93,906	+11,972	2,825	2,919	+94	498,537	521,526	+22,988
うち保険契約準備金	309,538	309,709	+170	71,103	78,081	+6,977	160	694	+534	71,867	84,973	+13,106	1,957	2,070	+113	455,137	476,126	+20,988
うち責任準備金	304,072	304,451	+379	70,978	77,921	+6,942	158	692	+533	71,138	84,170	+13,031	△866	△948	△82	445,977	466,868	+20,889
うち社債	4,762	4,762	-	-	-	-	-	-	-	4,730	4,425	△305	196	196	+0	9,689	9,384	△304
うちその他負債	10,547	14,419	+3,872	833	1,076	+243	107	112	+4	3,530	3,036	△493	366	324	△41	19,981	23,060	+3,078
うち退職給付に係る負債	3,929	3,997	+67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,131	4,199	+67
うち価格変動準備金	1,814	1,899	+85	143	168	+24	0	0	-	-	-	-	-	-	-	1,957	2,067	+109
うち繰延税金負債	2,037	1,983	△54	85	57	△27	0	0	+0	1,392	1,034	△357	78	79	+0	3,578	3,135	△443
純資産の部合計	28,882	27,980	△902	1,520	1,512	△7	181	244	+63	8,053	6,681	△1,372	2,155	2,195	+39	37,492	36,497	△994
うち株主資本合計	6,960	6,048	△911	1,300	1,365	+64	181	244	+63	8,365	8,295	△70	2,341	2,376	+34	15,896	16,306	+410
うちその他の包括利益累計額合計	21,922	21,931	+9	219	147	△71	0	0	+0	△312	△1,614	△1,302	△185	△181	+4	21,583	20,179	△1,403
うちその他有価証券評価差額金	22,138	22,337	+198	219	147	△71	0	0	+0	29	△1,098	△1,127	-	-	-	22,381	21,387	△994
うち土地再評価差額金	△124	△130	△6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△124	△130	△6

第一生命グループ業績－第一生命HDの連結ソルベンシー・マージン比率

(億円)

	18/3末	18/9末	増減
ソルベンシー・マージン総額(A)	72,918	73,175	+257
資本金等 ⁽¹⁾	12,239	12,885	+646
価格変動準備金	1,957	2,067	+109
危険準備金	7,211	7,267	+56
一般貸倒引当金	4	1	△3
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	27,995	26,776	△1,219
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	1,555	1,795	+240
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の合計額	△115	△123	△7
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	23,200	23,527	+327
負債性資本調達手段等	7,592	7,592	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	△7,496	△6,694	+802
控除項目	△1,650	△2,720	△1,069
その他	423	797	+374
リスクの合計額(B) $\sqrt{(\sqrt{R_1^2+R_5^2+R_8+R_9})^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4+R_6$	17,395	17,578	+183
保険リスク相当額 R ₁	1,202	1,213	+11
一般保険リスク相当額 R ₅	52	51	△1
巨大災害リスク相当額 R ₈	20	17	△3
第三分野保険の保険リスク相当額 R ₉	2,013	1,976	△36
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R ₉	—	—	—
予定利率リスク相当額 R ₂	2,532	2,595	+63
最低保証リスク相当額 R ₇ ⁽²⁾	810	757	△52
資産運用リスク相当額 R ₃	13,325	13,506	+180
経営管理リスク相当額 R ₄	399	402	+3
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	838.3%	832.5%	△5.8%

(1) 社外流出予定額及びその他の包括利益累計額等を除いています。

(2) 標準的方法を用いて算出しています。

本資料の問い合わせ先

第一生命ホールディングス株式会社
経営企画ユニット IRグループ
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社(以下「当社」という。))は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。